

5/15
2011年第1074号
(毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会 敬啓
発行人 志岐 大
大阪府浪速区幸町1-2-33表
電話(06)6568-7731(代)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円 月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

「保険でよい歯科大阪連絡会」が市民講座

6・12開催＝大阪府・大阪市が後援＝

市民講座・総会のご案内
2011年6月12日(日)12:00～16:00
会場 保険医協同組合会館5F M&Dホール 入場無料



「保険でよい歯科医療を大阪連絡会」は、6月12日に第2回総会(協会40周年記念事業)を開く。総会には、大阪府・大阪市から後援が寄せられ、同会世話人の小澤力副理事長は市民や行政関係者に参加を呼びかけている。

患者・スタッフとご参加を

南光町の元町長・山田兼三さんを招いて「歯を大切に健康が花咲いた町」を題に市民講座を開催します。参加費は無料です。

歯みがきコーナーでは、希望者一人ひとりに

今号に同封の案内チラシ

歯みがき指導し、歯ブラシやキシリトール入りお菓子をプレゼントします。市民講座では、歯科政策に重点を置いた健康な町づくりを立ち上げ、推進してきた経験や災害における自治体の役割などについて話していただきます。総会では、連絡会の取り組みや今後の活動について報告します。

被爆科学者・沢田昭二氏が語る



原発汚染①

東京電力福島第一原発の事故に収束のメドが立たないなか、放射能汚染の影響について被爆体験を持つ沢田昭二・名古屋大学名誉教授に語ってもらった。

さわだ・しょうじ 1931年、広島生まれ。45年、爆心地から1.4kmの自宅で被爆。名古屋大学名誉教授(素粒子物理学)。著書に『共同研究広島・長崎原爆被害の真相』『素粒子の複合模型』など。

止められない放射性物質の拡散

「最悪期脱した」とは言えない

東日本大震災で東京電力の福島第一原子力発電所が制御不能に陥ってから、59日近く経った(11日執筆時点)。今もなお、大量の放射性物質が放出され、国民のなかで被曝への不安が広がっている。政府や電力会社が主張してきた原発安全神話ほどのように崩壊したのか。改めて振り返ると、福島第一原発では地震発

核分裂再開の危険
点検中だった4、6号機では、使用済み燃料棒を同じ建屋内のプールに保管して冷却していたが、燃料棒内に残っている大量の放射性物質のエネルギーで水温が上昇。4号機は水が蒸発して燃

料棒が露出し、高温になって火事が起こった。プールは建屋内にあるものの、外部と遮断されていない。水の遮蔽がなければ放射性物質が大気中に飛散するため、注水を続けるしかない。

内部被曝を軽視
拡大する放射能汚染に対し、政府やマスコミは「ただちに健康への影響はない」と繰り返している。体内に取り込む内部被曝を軽視し、エックス線やCTより低線量だから問題ないとする説明は、科学的ではない。適切な情報が伝えられないまま、一刻と被曝が広がっている。(つづ)



避難所で歯科医療支援にあたる山上紘志副理事長＝4月10日、宮城県名取市内

広がる復興支援の輪

17協会が被災地で活動

東日本大震災で被害を受けた会員や住民を支援

しようと、保団連や全国の保険医協会による活動の輪が広がっている。保団連の集約では、4月19日までに17協会が被災地を訪れ、避難所での医療支援や被災会員の訪問活動などに取り組んだ。募金や救援物資の提供などを含め、全国的な大きな支援活動になっている。各協会からの医師・歯科医師の派遣は、震災発生後すべの3月16日の住江憲勇保団連会長を皮切りに、のべ7回に及ぶ。負傷した被災者への処置や風邪の治療など、医療支援に取り組んでいる。大阪歯科からは、4月9日に山上紘志副理事長が宮城県の避難所を訪問し、口腔ケアにあたった。被災会員の被害状況の把握や医薬品の配布などのための事務局員の派遣は、のべ13回。大阪歯科からも3月と4月の2回にわたって現地を訪れ、

保団連が確保した支援物資や見舞金などを届け、5月8日には大阪歯科の事務局員が岩手協会を訪れ、会員の訪問活動に取り組んでいる。

また、大阪府保険医協同組合や福岡歯科、栃木県などの各協会は、メンバーなどと協力しながら歯ブラシ計17万1000本を被災地に届けている。復興支援に向けて保団連は、①被災会員の激

励、救援と診療機能の回復②被災住民に対する医療を中心とした支援活動——を柱に、各協会と共同して活動を進めている。宮城協会内に現地対策本部を設置し、長期間にわたって継続的に支援できる体制をつくらせている。

大阪歯科では今後、近畿ブロックの各協会と連携して、医療支援活動を計画している。

各種相談室

専門家がおこたえします

- 法律相談**
【日時】6月6日(月)午後2時～4時
【相談者】河村武信 弁護士
- 税務相談**
【日時】6月15日(水)午後2時～5時
【相談者】林明 税理士
- 雇用相談**
【日時】6月16日(木)午後2時～4時
【相談者】堀口正二 社労士

相談料は無料、会場は保険医会館1Fです。

紙面へのご意見や感想、投稿記事などを新聞部までお寄せください。紙面に掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。(郵送やファクスで、協会新聞部までお寄せください)

と、チェルノブイリ事故のようになる。最悪な状態を脱しているとは言えず、一日も早い冷却機能の復旧を願うばかりだ。

内部被曝を軽視
拡大する放射能汚染に対し、政府やマスコミは「ただちに健康への影響はない」と繰り返している。体内に取り込む内部被曝を軽視し、エックス線やCTより低線量だから問題ないとする説明は、科学的ではない。適切な情報が伝えられないまま、一刻と被曝が広がっている。(つづ)

歯界
ジュラシックパークやタイタニック等の科学風味のパンニック映画が大好きだ。どうもメッセージに含まれる科学不信に共感するかららしい。

食う物の無い戦争中に育ったせい、平和な時代になっても獣性が抜けず、善悪や美醜などといった形而上のことが大嫌いだから、科学だけが思考の拠りどころなのに、それに対する不信とは単なるへそ曲がりである。

医学は化学や分子生物学の形而下の理論を装飾品として無断借用し、雑ばく多様な累積経験に主観的な感情や性格などの詰め物を混ぜ合わせ、玉石混淆(ぎょくせきこんこう)の巨大情報文化を形成している。情報洪水のなかを泳がされ、自分からの情報発信が狭い自分の診療室範囲内だけで、へそもいっそう曲がっている。

原発事故は、パニック映画の科学と自然との対峙シーンと似すぎている。フィクションが幻想なら今すぐに終焉してほしいと大嫌いな神仏にまで頼りたくなっている。